改善方策実施計画書

担当部局：文学研究科　責任者：文学研究科委員長　幹事：大学院事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項	【総評】法務研究科を除く各研究科では、入試データの掲載などを含めて『大学院案内』などによる受験生への広報活動が不十分なので、改善が望まれる。 【助言】法務研究科以外の全研究科において、学生の受け入れ方針や入試データの『大学院案内』への掲載を含めて、受験生への広報が十分とはいいがたいので、改善が望まれる。
点検・評価問題点	現行の『大学院案内』が若い学部学生の興味を引くような誌面になっていない。
改善方策	4-31-1　、1-10-2 学部案内冊子の『CROSSING』のような『大学院案内』冊子を作成し、学生の受け入れに関する広報活動の充実を図る。

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
各専攻は、学生の受け入れに関する広報活動を積極的に行うための具体案を検討する。	2011.3.31	A完全に達成 ○ / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに着手している。

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
ひきつづき各専攻は、学生の受け入れに関する広報活動を積極的に行うための具体案を検討し、原案を作成する。大学院案内の冊子として、学部の『CROSSING』の大学院版『大学院案内』を、新たに作成するための検討に入る。	2012.3.31	A完全に達成 ○ / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに着手している。

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
大学院案内の冊子として、学部の『CROSSING』の大学院版『大学院案内』を、新たに作成する。	2013.3.31	A完全に達成 / B達成半ば ○ / C未達成 （BまたはCの理由） 予算との兼ね合いもあり未着手である。

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
この問題は一研究科にとどまるものではなく、大学院全体の問題であるので、大学院研究科委員長会議において提案し、具体的な方策を模索する。		A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
		A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
		A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】法務研究科を除く各研究科では、入試データの掲載などを含めて『大学院案内』などによる受験生への広報活動が不十分なので、改善が望まれる。 【助言】法務研究科以外の全研究科において、学生の受け入れ方針や入試データの『大学院案内』への掲載を含めて、受験生への広報が十分とはいいがたいので、改善が望まれる。
点検・評価問題点	現行の『大学院案内』が若い学部学生の興味を引くような誌面になっていない。
改善方策	4-31-1　、1-10-2 学部案内冊子の『CROSSING』のような『大学院案内』冊子を作成し、学生の受け入れに関する広報活動の充実を図る。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

日本文学専攻では、二年前から、年に一度「大学院日本文学専攻説明会・懇親会」を実施しており、活発に行われている。今後、進学希望の学生の意識を高めるような、何らかの工夫が求められるだろう。

中国学専攻では、広報活動が足りないのは事実であるが、問題は学位を取っても受け皿がないという現状にあり、そこを変えない限り、一大学の努力では如何ともしがたいことにある。

英文学専攻では、独自の個別説明会を、年に３度行った。また学部の英文学会開催の機会に、院生が PC を用いながら大学院の授業内容、教員紹介、年間活動の紹介を行った。さらに秋に行っているシンポジウム、３月の外部講師を招いての連続講演会にも学部生の参加を呼び掛け、大学院の研究活動を知る機会を与えている。

書道学専攻では、ホームページや入試説明会が実施されているが、なお効果的に大学の本当の特色が伝達されるよう内容も検討する必要がある。

教育学専攻では、毎年度、入試説明会を１、２回行なっている。定員充足も平均すればほぼできている。

所見	学外への広報活動も検討してみてはどうか。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

日本文学専攻では、三年前から、年に一度「大学院日本文学専攻説明会・懇親会」を実施しており、活発に行われている。今後、さらにこの会を盛んにし、また、春秋の日本文学会大会などを通じて、学生に情報を与え、進学希望の学生の意識を高めるよう、努力をしていきたい。

中国学専攻では、学部生に対する専攻説明会を実施していない。今後開催を検討していく。その一方で、大学院に進学しても就職口がないという現状は、一専攻では対応できない。

英文学専攻では昨年同様、院生にも参加してもらい個別説明会を持った。また学部のゼミ、学科の英文学会などにおいて簡単な案内を配布しながら院での研究活動の紹介を行った。秋のシンポジウムや３月の外部講師による連続講演会には学部生の参加を促し、教員と院生との交流の機会を与えることができた。

書道学専攻では、ホームページによる広報や学外生を含めた入試説明会を実施しているが、さらに『大学院案内』の内容の検討を始めている。

教育学専攻では、毎年度、入試説明会を１、２回行なっている。定員充足も平均すればほぼできている。

研究科専攻のアドミッションポリシーは、2011 年度の『大学案内』に掲載している。入試データは『大学案内』にはまだ掲載していないものの、『入試要項』には掲載している。なお、教育・研究目的および３つのポリシーの検証、入試データの掲載については、大学院改革検討委員会が学長宛の答申としてまとめ、3 月に提出した。

所見	専攻ごとに学内の説明会を開催または開催を検討していることは評価できます。昨年度の所見にも記載されているように、学外への広報活動を検討してはどうでしょうか。

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

学部案内冊子の『CROSSING』のような『大学院案内』冊子を作成し、学生の受け入れに関する広報活動の充実を図ることは、文学研究科全体として予算との兼ね合いもあり未着手である。その他の広報活動についての各専攻の現状は次のようである。

日本文学専攻では、本年度も、年に一度学生に情報を与え、進学希望の学生の意識を高めるよう、例年のように「大学院日本文学専攻説明会・懇親会」を実施した。

中国学専攻では、学部生に対する専攻の説明会を行った。また、「大学院案内」を充実するためのデータ収集につとめている。どの程度の記述が可能かは、全体の予算措置による。

英文学専攻では昨年同様、7月と1月に院生にも参加してもらい個別説明会を持った。また秋のシンポジウムへの参加や3月の外部講師による連続特別講義には学部生の参加を促し、専攻の活動を認知してもらうように努めた。今回は学部の学会で院の説明を行う機会が時間の関係で与えられなかったのが残念である。

書道学専攻では、ホームページによる広報や学外生を含めた入試説明会を実施しているが、未だ不十分であるので、新たな『大学院案内』によりアピールできるような内容を掲載できるように検討している。

教育学専攻では、毎年度、入試説明会を1、2回行なっている。定員充足も平均すればほぼできている。

所見	専攻ごとに例年学内向けの広報活動を実施していることは評価できます。一昨年、昨年の所見に記載されている、学外への広報活動を検討してはいかがでしょうか。

改善方策実施計画書

担当部局：文学研究科　責任者：文学研究科委員長　幹事：大学院事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	入試方式については、専攻によっては学生定員充足率との兼ね合いで問題となり得る。					
改善方策	4-31-2　専攻の特色に応じた効果が期待できる入試方法を案出し、導入する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→		→	→		

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
各専攻は現在採用している入試制度を点検し、未採用の入試制度を検討する。	2011.3.31	A完全に達成 ○　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに取り組んでいる。

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
点検、検討結果を踏まえ、各専攻の特色に応じた効果が期待できる入試方法を案出する。	2012.3.31	A完全に達成 ○　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに取り組んでいる。

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
案出した入試方法を導入できるよう、研究科委員長会議の審議を経て働きかける。	2013.3.31	A完全に達成 ○　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由） 案出した入試方法を導入できるよう研究科委員長会議の審議を経て働きかけることは行えていないが、日本文学専攻・中国学専攻・書道学専攻では検討を終了し、英文学専攻は検討中であり、教育学専攻は検討を開始した。

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
英文学専攻、教育学専攻は具体的な検討結果を出す。		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	入試方式については、専攻によっては学生定員充足率との兼ね合いで問題となり得る。
改善方策	4-31-2　専攻の特色に応じた効果が期待できる入試方法を案出し、導入する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

日本文学専攻は、今後、専攻内で協議して行く必要があると考えられる。

中国学専攻は、基本的な学力を問う現在の入試方法を変える必要性を認めない。基礎的な中国学の学力を欠如した学生の入学を許容した時、現在の院の教育システムは崩壊する。

英文学専攻は、「現職教員 1 年修了コース」と「社会人入学制度」を検討するため、その委員会を設置した。

書道学専攻は、「現職教員 1 年修了コース」について検討する。

所見	引き続き改善方策を協議し、計画が実施されることを期待する。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

日本文学専攻は、平成 25 年度から「現職教員 1 年修了コース」を開設する方向で事務手続きを進めている。

中国学専攻では、現在の入試方法は適切であると考えている。特に問題は生じていない。一般学生と「現職教員一年修了コース」とでも入試方法は区別されている。

英文学専攻は、専攻内で協議を行った。現行の社会人入学制度において、集中講義やインターネットを用いた distant learning などの導入の案などが出たが、実質上難しい面があり最終的な結論は出ていない。

書道学専攻では、「現職教員 1 年修了コース」についての是非を含め専攻会議で検討した。

所見	専攻ごとに特色に応じた入試方法について議論していることは評価できる。成果が期待されます。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

案出した入試方法を導入できるよう研究科委員長会議の審議を経て働きかけることは行えていないが、日本文学専攻・中国学専攻・書道学専攻では検討を終了し、英文学専攻は検討中であり、教育学専攻は検討を開始した。

日本文学専攻は、「現職教員一年修了コース」の開設に必要な事務手続きを全て終え、2013 度から実施できることとなった。

中国学専攻では、現行の入試方法で特に問題はないと考えている。来年度入試においても例年どおり行った。

英文学専攻は、引き続き専攻内で協議を行った。「現職教員 1 年修了コース」は設置しないということに決まった。その他の点については検討中である。

書道学専攻では、現在の入試方法について今の所特に変更する必要はないと考えている。

教育学専攻では、定員充足率は均せば十分な状況ではあるが、毎年均等に応募者が出るように検討を開始した。

所見	日本文学専攻が「現職教員一年修了コース」実施を実現したことは評価できます。英米学専攻、教育学専攻はその他の検討課題を具体化することが望まれます。

改善方策実施計画書

担当部局：文学研究科　責任者：文学研究科委員長　幹事：大学院事務室

2010年3月31日

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	学生の受け入れに関する広報活動については、文学研究科のホームページ一つを取り上げてみても適切に行われているとは言えない。
改善方策	4-31-3　学部学生と大学院生による合同セミナーなどをヒントにした、広報活動でも入試活動の改善でもない学生の受け入れに関する施策の開発・活用に取り組む。（下線部追加）

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
						→

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
英文学専攻で行った学部生と大学院生による合同セミナーの実施をヒントにして、広報活動でも入試制度の改善でもない、学生の受け入れに関する施策の開発・活用に取り組むための検討を開始する。	2011.3.31	A完全に達成 ○ / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに検討中。
2011年度実施計画	**達成時期**	**2011年度取り組み結果**
各専攻は、大学院入試プロジェクトと連携しつつ、ひきつづき学生の受け入れに関する施策の開発・活用に取り組むため、本学大学院全体の入試制度の調査などを行う。	2012.3.31	A完全に達成 ○ / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに検討中。
2012年度実施計画	**達成時期**	**2012年度取り組み結果**
ひきつづき各専攻は、学生の受け入れに関する施策の開発・活用に取り組むため、他大学の入試制度の調査などを行う。	2013.3.31	A完全に達成 ○ / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに検討中である。
2013年度実施計画	**達成時期**	**2013年度取り組み結果**
ひきつづき各専攻は、学生の受け入れに関する施策の開発・活用に取り組むため、社会人・現職教員などの調査などを行う。	2014.3.31	A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）
2014年度実施計画	**達成時期**	**2014年度取り組み結果**
さまざまな調査結果をもとに、文学研究科として、学生の受け入れに関する施策の開発・活用の実施計画を立案する。	2015.3.31	A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）
2015年度実施計画	**達成時期**	**2015年度取り組み結果**
実施計画の立案を基に、研究科委員長会議などの審議を経て、実施可能なものから実施する。	2016.3.31	A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	学生の受け入れに関する広報活動については、文学研究科のホームページ一つを取り上げてみても適切に行われているとは言えない。
改善方策	4-31-3　学部学生と大学院生による合同セミナーなどをヒントにした、広報活動でも入試活動の改善でもない学生の受け入れに関する施策の開発・活用に取り組む。（下線部追加）

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

日本文学専攻は、学問研究に意欲を示すような学生がふえるよう、合同セミナーを参考にしつつ、話し合っていきたい。

中国学専攻は、大学院修了後の深刻な就職の問題はひとまず脇に置いて云えば、学問のおもしろさを伝える広報活動の必要性は感じている。現に本専攻では中国学の面白さを積極的に外部に発信し続けている教員は居る。

英文学専攻は、学部生と大学院生の合同セミナーにおける活動、秋に行っているシンポジウムによる研究発表会への学部生の参加、３月の外部講師を招いての連続講演会にも学部生の参加を呼びかけ、大学院の研究活動を知る機会を与えている。

書道学専攻は、ホームページへのとり上げ方を一考する。修了制作展や『書道学論集』なども工夫して取り入れうると効果があろう。

所見	各学科・専攻で持っている学会等を通じて大学院生と学部生が交流することも一つの方策か。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

本学大学院全体の入試制度は、大学院改革検討委員会の議論に付した。

日本文学専攻は、学問研究に意欲を示すような学生がふえるよう、年に一度おこなっている「大学院日本文学専攻説明会・懇親会」や、春秋の日本文学会大会などを通じて、今後もさらに広報活動を続けていきたい。

中国学専攻では、年２回開催している「漢學會」をとおして、学部生・大学院生を連携する行事を行っている。しかしそれが大学院進学と密接に関連していない。

英文学専攻は、昨年度（上記内容）行ったことを先ずは踏襲した。秋のシンポジウムは大きな研究活動であるので、ウェブなどを通し学内・学外へ広く発信した。英文学専攻の英文ジャーナルの他機関への配布も毎年行っている。また院生主導で学部生に向けて、代表的英米文学作家・作品紹介のパネル展示も年間を通じて行っている。

書道学専攻では、大東書学学会で学部生と大学院生の交流を図るなどしているが、さらに『大東書学』誌上に大学院の記事を掲載するようにした。

所見	各専攻とも前年度より積極的に広報活動を実施していることは評価できる。成果が期待されます。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

文学研究科全体としては、専攻ごとに検討中、ということである。各専攻の状況は次の通り。

日本文学専攻は、「大学院日本文学専攻説明会・懇親会」を今年度もおこなった。また、春秋の日本文学会大会の際にも学部学生への広報活動を続けている。

中国学専攻では、年２回「漢學會」を開催し、大学院生と学部生の交流を図っている。またゼミ単位では積極的に大学院生と学部生が積極的に交流している。しかし今のところまだそれが大学院進学に必ずしも繋がっていない。

英文学専攻は、第一に秋のシンポジウムにおける研究発表に関し、ウェブなどを通し学内・学外へ広く発信した。英文ジャーナル *Paulownia* の他機関への配布も行った。他専攻との兼ね合いもあるが、専攻独自の HP 作成の件が一案として出た。

書道学専攻では、「大東書学学会」等で学部生と大学院生の交流を図っている。さらに『大東書学』誌上に大学院の記事を掲載する

などしている。

教育学専攻では大学院と学部の交流をどのように図り、大学院への進学者を増やすか検討を始めたい。FD での論議では 5 年制（学部３年生からの飛び入学）の制度新設の検討などが提案されているが、他大学の状況などについて資料収集などを開始する予定である。

所見	前年度とほぼ同様の活動を実施されていることが説明されています。実効性が期待されます。

改善方策実施計画書

担当部局：文学研究科　責任者：文学研究科委員長　幹事：大学院事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	外国人留学生の受け入れ先が中国・台湾・韓国であることが影響していると考えられる。					
改善方策	4-32-1　留学希望者が情報を入手しやすくする。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→			→		

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
各専攻は、留学生の受験希望者が、大学院の入試関連・教育システム・学位取得条件などの情報を入手しやすくするための公開方法（ホームページ・パンフレットなど）を検討する。	2011.3.31	A完全に達成 ／ B達成半ば ／ ○ C未達成 （BまたはCの理由） 未着手である。
2011年度実施計画	**達成時期**	**2011年度取り組み結果**
各専攻は、留学生の受験希望者が、大学院の入試関連・教育システム・学位取得条件などの情報を入手しやすくするための公開方法（ホームページ・パンフレットなど）を検討する。	2012.3.31	A完全に達成 ／ B達成半ば ／ ○ C未達成 （BまたはCの理由） 未着手である。
2012年度実施計画	**達成時期**	**2012年度取り組み結果**
ひきつづき各専攻は、留学生の受験希望者が、大学院の入試関連・教育システム・学位取得条件などの情報を入手するための公開方法を決定する。	2013.3.31	A完全に達成 ／ ○ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに検討しているが、未着手の専攻もある。
2013年度実施計画	**達成時期**	**2013年度取り組み結果**
文学研究科全体として、公開方法（ホームページ・パンフレットなど）を決定する。	2014.3.31	A完全に達成 ／ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由）
2014年度実施計画	**達成時期**	**2014年度取り組み結果**
		A完全に達成 ／ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由）
2015年度実施計画	**達成時期**	**2015年度取り組み結果**
		A完全に達成 ／ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	外国人留学生の受け入れ先が中国・台湾・韓国であることが影響していると考えられる。
改善方策	4-32-1　留学希望者が情報を入手しやすくする。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

留学生にとって必要な情報とは何かを大学ならびに大学院全体で考える必要がある。
またパンフレットの作成については、予算との兼ね合いもあり、大学全体との協議が必要である。

所見	来年度からの改善が進捗することを期待する。大学院全体で考えるなら、委員長会議や大学院評議会への提案が必要である。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

専攻単位では検討しているところもあるが大学院全体の公開方法の検討は未着手である。
中国学専攻では、特に留学生に向けた情報発信を行っていない。今後検討したい。
英文学専攻は未着手である。研究科全体の方針が先ず必要と思われる。
書道学専攻では、専攻のホームページがあるが、その一層の充実を検討している。

所見	情報発信の必要性は各専攻とも認識しているので、早期の実施が望まれます。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

文学研究科全体としては、専攻ごとに検討しているが、未着手に専攻もあるというのが現状である。

日本文学専攻は、専攻のホームページに英文と中国語の入試案内も載せることについての検討をした。しかし、現在はまだできていない。
中国学専攻では、広く留学生に向けた情報発信を行っていない。個人的に問い合わせがあったので回答した。
英文学専攻は未着手である。研究科全体の方針が先ず必要と思われる。A4 一枚、両面だけでもよいので、案内用のパンフレットが欲しいところ。
書道学専攻において検討しているが、大学院全体の公開方法の検討をしてほしい。
教育学専攻では、特に留学生を対象にした情報発信をしていない。今後検討したい。

所見	未着手の専攻は検討の上、早期の実施が望まれます。

改善方策実施計画書

担当部局：文学研究科　責任者：文学研究科委員長　幹事：大学院事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	外国人留学生の受け入れ先が中国・台湾・韓国であることが影響していると考えられる。
改善方策	4-32-2　北京事務所における入学試験への参加について、専攻ごとに検討し決定する。

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→		→			

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
北京事務所における入学試験への参加について、専攻ごとに検討する。	2011.3.31	A完全に達成 ／ B達成半ば ／ ○ C未達成 （BまたはCの理由） 未着手である。

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
北京事務所における入学試験への参加について、専攻ごとに決定する。	2012.3.31	A完全に達成 ／ ○ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに検討している。

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
再度、北京事務所における入学試験への参加について、専攻ごとに決定する。		○ A完全に達成 ／ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに検討した結果、5専攻のいずれも今のところ参加の予定はない。

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
		A完全に達成 ／ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
		A完全に達成 ／ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
		A完全に達成 ／ B達成半ば ／ C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	外国人留学生の受け入れ先が中国・台湾・韓国であることが影響していると考えられる。
改善方策	4-32-2　北京事務所における入学試験への参加について、専攻ごとに検討し決定する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

日本文学専攻は、専攻内で、今後の方針を協議する。

中国学専攻は、まだ北京事務所には働きかけていないが、積極的なアプローチの必要性は感じている。

英文学専攻は、今のところ参加の予定はない。

書道学専攻は、協議会で出されたことがないが前向きに検討すべきであろう。

教育学専攻は、北京事務所活用の希望はあまりない。

所見	来年度からの改善が進捗することを期待する。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

5 専攻のいずれも今のところ参加の予定はない。

所見	専攻ごとに北京事務所における入試の必要性について意見の相違がみられるが、2012 年度中にある程度の方向性を決定することが望まれる。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

専攻ごとに検討した結果、5 専攻のいずれも今のところ参加の予定はない。

所見	すべての専攻で検討が終了し、北京事務所における入学試験参加を見送ったものと判断します。

改善方策実施計画書

担当部局：文学研究科　責任者：文学研究科委員長　幹事：大学院事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	収容定員に対する総在籍者数および入学定員に対する入学者数の比率で問題がないのは書道学専攻だけである。新設の教育学専攻を含む4専攻は今後しばらく継続する日本の少子化、アメリカ発の経済危機などの影響により雇用環境が劣化し、受験に響くことが懸念される。
改善方策	4-33　総在籍者数比率・入学者数比率のいずれかが1を下回る専攻は、1を超えるようにする。

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→	→	→	→		

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
総在籍者数比率・入学者数比率のいずれかが1を下回る専攻は、入試方法の改善、本学内外への積極的アピールなどの実施を検討する。	2011.3.31	A完全に達成 ○　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに着手している。

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
ひきつづき積極的アピールなどの実施を検討し、具体案の策定に取り組む。	2012.3.31	A完全に達成 ○　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに着手している。

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
文学研究科として、策定した具体案を実施する。	2013.3.31	A完全に達成　B達成半ば ○　C未達成 （BまたはCの理由） 専攻ごとに検討したが、文学研究科全体としての具体案は策定していない。

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
再度、主任会議、委員会などで、文学研究科全体の問題として、検討する。		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	収容定員に対する総在籍者数および入学定員に対する入学者数の比率で問題がないのは書道学専攻だけである。新設の教育学専攻を含む 4 専攻は今後しばらく継続する日本の少子化、アメリカ発の経済危機などの影響により雇用環境が劣化し、受験に響くことが懸念される。
改善方策	4-33　総在籍者数比率・入学者数比率のいずれかが 1 を下回る専攻は、1 を超えるようにする。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

日本文学専攻は、差し当たっては、「大学の専任教員」養成よりは、修士（博士前期）課程を修了し、高度の学力を身につけた高校教員を送り出すといった共通認識を、教員が持つことが重要でないかと考えられる。協議していく必要があろう。

中国学専攻は、ここ数年、大学院入学者数の減少が続いている。中国学科と連携し、学部３年生・４年生のゼミ生に大学院進学をよびかけているが、今のところ効果はあがっていない。

英文学専攻は、現在の定員５に対し、2010 年度の入学者は 6 である。次年度入学者は 7 と定員を満たしている。

書道学専攻は、定員を満たしている。

教育学専攻は、説明会の回数と内容を検討する。

所見	引き続き改善方策を協議し、計画が実施されることを期待する。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

日本文学専攻は、博士前期課程は入学定員５人に対して 2011 年度の入学者数は４人、博士後期課程は入学定員５人に対して入学者数は０人であった。前期課程全体では１３人で定員数を満たしているが、後期課程全体は１人で定員数を満たしていない。今後、後期課程への進学希望者を増やすよう、説明会の内容を工夫するなどの具体的な方策を検討していく。

中国学専攻では、専攻として学部生に対する専攻説明会を開催していない。各ゼミ担当教員に委ねられている。

英文学専攻は、定員を満たしている。

書道学専攻は、現在のところ定員を満たしている。

教育学専攻は、研究生を適切に受け入れ、そこからの受験者を増やす。

所見	改善方策として「総在籍者数比率・入学者数比率のいずれかが 1 を下回る専攻は、1 を超えるようにする。」ことが求められているので、各専攻とも現状の説明でこれらの数値を明確に表記する必要があります。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

専攻ごとに検討したが、文学研究科全体としての具体案は策定していない。

日本文学専攻は、2012 年度の入学者数は、博士前期課程は入学定員５人に対して５人、博士後期課程は入学定員５人に対して１人であった。前期課程全体では９人、後期課程全体では２人で、どちらも定員数を満たしていない。

中国学専攻では、各ゼミ担当教員が進学相談に応じる他、今年度は学部生に対する専攻説明会を開催した。

英文学専攻は、今年度は定員を満たしている。（修士１年生６人、修士２年生７名）

書道学専攻は、現在のところ定員を満たしている

教育学専攻は、研究生を適切に受け入れ、そこからの受験者を増やすことも進めているが、学部生や卒業者（現職教員）への働きかけも強めることを検討したい。（14 名の入学者のうち、４名が本学出身者であった）

所見	中国学専攻は数値の記述がありません。教育学専攻が説明している働きかけと、その成果に期待します。